

2019 年度第 2 回外洋常任委員会

議事録

日 時 : 2019 年 9 月 6 日(金) 18:30-20:30

場 所 : トーヨーアサノ会議室(新宿区新宿 5-13-9 太平洋不動産新宿ビル6F)

出席者 : (理事)

馬場益弘副会長、中澤信夫副会長、坂谷定生常務、平松隆、菊池邦仁、大島茂樹、  
新田肇、宇都光伸、作田智恵子

(委員会)

ルール委員会外洋規則小委員会委員長 大村雅一

外洋計測委員会委員長 八木 達郎

国際委員会外洋小委員会 委員 鈴木一行

外洋常任委員会事務局長 鈴木保夫

(順不同、敬称略) 計 13 名

議長 常務理事 坂谷 定生

記録 理 事 作田智恵子

## I. 挨拶

馬場副会長より、「オリンピックまで 1 年を切ったが、今度の江の島での 1 か月に及ぶ国際大会(470 ワールド、オリンピックプレ大会、ワールドカップ)において、多くの外洋メンバーがボランティアとして参加していたのは、喜ばしいことだった」との挨拶があり、その後議長として坂谷常務理事が指名され、議事に入った。

## II. 議事

### 1. 第 60 回パールレース報告と沖縄-東海ヨットレース 2020 について:坂谷

パールレースは、今大会 60 回記念だったが、昨年に続き台風の影響を受け 2 年連続の中止となった。誠に残念である。58 回までは、中止になったのは 1 度だけだったが、59 回、60 回と 2 年続けての中止は初めて、今後天候の不順でこのようなことが増えるかもしれない。

沖縄-東海ヨットレース 2020 は来年 GW に行く。4 月 29 日スタートで準備を始めた。

### 2. ジャパンカップ 2020 について:坂谷

2018, 2019 年度と中止となったが、2020 年に向けて調整中。

委員会では 2017 年に決めたルールを白紙に戻して再スタートする。

今後については、ジャパンカップ委員会に委ねている。

### 3. パラオ国際親善レースの状況について:新田

カテゴリーの変更、カテゴリー 1 を採用。

オーストラリアから講師を招き、OSR カテゴリー 1 を満たす安全講習会を 9 月 20-21 日の 2 日間横浜ベイサイドマリーナで開催する。

只今、JSAF に共同主催を依頼中。

参加艇: エントリー8 艇。トレッキー、テティス、カモメ飛ぶ(パラオ人 1 名乗船)、サザンクロス、LL7、マンデイナイト、宮古島のカタマラン(4 名パラオ人乗船)、他。

2 艇はエントリーフィーも納入。

スタートは 12 月 29 日だが、スタート時間は 12 時頃とした、これは大型船優先のため、前日の艇長会議で決定する。また、スタートラインは帆走だが、港内は機帆走。

伴走艇「みらいへ」には、医者と看護師を乗船させる。

OP20 艇はすでに贈呈し、神奈川県連から 3 名が交代で指導に当たっている。

来年の 4 月以降は、ジャイカの事業に採択してもらうよう交渉中。今まで日本人には指導するスキルがないと思っていて、海外でのセーリング指導はなかったが、うまくいけば、今後海外での指導の道も開かれる。

9 月末に、パラオレースの前日の OP のレースに参加する選手の選抜レースをパラオで行う。選ばれた 10 名は、レースに参加し、帰路は『みらいへ』に乗船する。

JAMSTEC(国立研究開発法人海洋研究開発機構)の協働のもと、マイクロプラスチック採取の用具を購入搭載し、『みらいへ』と『トレッキー』で採取分析し、8 月のパラオ会議で活用する。

#### 4. 次期理事選挙対応とその後の理事選出方法の動向について: 大村

以下のように説明があった。

##### 【2020 年 6 月改選】

スポーツ団体ガバナンスコードにて求められている女性理事の割合に向けての対応が必要になってくるが、2020 年は、現行の割合で選出の予定。

##### 【2022 年 6 月改選から】

上記女性理事の目標比率(40%以上)及び外部理事の目標比率(25%)を目指す。

ガバナンスコードへの対応を検討するためのチームが発足することになり、そのチームリーダーに馬場副会長が就任の予定。

評議員に関しても、理事に同じく、外部評議員、女性評議員の目標比率実現を目指す。

常任委員会としては、坂谷常務理事が定年になるため、新規に選挙理事を検討する。

#### 5. 2019 年度外洋合同委員会について: 大村

担当委員会(ルール)大村氏より、添付に基づいて報告があった。

2020 年 2 月 1 日(土)12:30 から、函館にて開催。今回初めての試みでパネルディスカッションを行う。

事前に意見、質問を徴収。より良いレースの運営に役立つ会を目指す。

関係団体には明日配信予定。

以下同時開催

NRO レースマネジメント講習会、外洋レーサーのためのルール講習会

#### 6. 2020 外洋 WH Mix 世界選手権及び国別予選選考について: 鈴木(一)

標記について現状を説明。

江の島にて、8 月 16 日及び 24 日に WS Mr.Alastair Fox と面談、2020WH 外洋世界選手権国枠予

選に参加表明。アジアから 3, 4 艇の枠。

2020 年 5 月—7 月に L30 にて欧州で開催予定。候補地はいくつかあるが、未定。

このレースは、国の参加枠獲得を競うもので、参加選手に参加権を与えるものではない。

代表選手の決定は NMA に委ねる。

L30 の使用は 2021 年大会までは決まっているが、以降白紙。

また 2014 パリオリンピックでの使用艇についても未定。

10 月にマルタ島 ROLEX ミドルシーレースで L30 ビルダーと会談(鈴木一行氏)、その後広く参加希望者に最新情報を提供する予定、方法は未定。

以下審議依頼があったが、ここではフリートーキングとし、外洋オリンピック小委員会で協議検討。

馬場副会長から植松委員長に相談し、小委員会を急ぎ招集する。

小委員会に中澤副会長を召喚することとした。

#### 7. マイクロプラスチックの採集と環境教材の立案について:鈴木(一)

JSAF の海洋汚染防止への責務として次世代の環境教育を行うことに意義があるということから、環境委員会、外洋常任委員会が活動を広げるツールの開発のために、小笠原レースで協力実績のある東京海洋大学とマイクロプラスチックに関する環境学習教材の企画立案についての協力関係を明文化する。(覚書を締結)

JAMSTEC との関係もあるが、JSAF としては橋渡しで、外洋常任委員会が受け皿となる。必要に応じて調整し、2 社とバランスをとっていく。

#### 8. オリンピック応援フラッグリレーについて:菊池

埋まっていなかった秋田—小樽、小樽から室蘭経由で北海道を一周。

北海道・東北がつながった。

残る四国ルート、福井—九州間が完成すれば、日本一周の運びとなる。

最終的に組織委員会に渡すルートを検討中。(中澤副会長、大村 JSAF 事務局長)

#### 9. JSAF ビジョン策定について

ビジョン委員会で作成中。今後はアクションプランを作ることに重点を置いて検討することになる。

会員、登録艇の減少が止まらない今、外洋としても、アクションプランが必要ではないか。

#### 10. 外洋艇登録書類の PDF 化 報告と負担について:作田艇データ WG 長

前回の外洋常任委員会の承諾を得て、『株式会社 ベーシックシステム』に発注、6 月末に納品された。金額は 194,724 円だった。

9 月 28 日開催の全国外洋団体長会議で、改めて外洋内海、東海、東京湾、三崎、三浦、湘南に対し 1 団体 32,454 円の協力をお願いする。

発注ファイル以外のデータも事務局にて追加。

現在艇登録システムで登録艇の整理中だが、大いに役立っている。

#### 11. 「サバイバルトレーニング」について:鈴木(保)

上記 6 でも紹介されたが、(一社)日本オーシャンレーサー協会からサバイバルトレーニングの JSAF 認

証について、資料の通り提案されている。9月14日開催のシーサバイバルトレーニングに、大村事務局長とともに参加する。

(坂谷常務)

この件に関しては外洋安全委員会から何らかの方向性が示されると思われるので、JSAFとしてどのように対応していくかは、今後検討、調整することになる。

12. 専門委員会報告

特になし。

13. 外洋加盟団体長会議への提案議題調整について

以上の議題に以下を加える。

「ユニバーシアード大会」について

14. その他

WS 総会に馬場副会長が出席予定。

以上